



2023年3月期 決算説明資料

スターゼン株式会社 証券コード：8043

2023年5月29日

本日のスケジュール

1. 2023年3月期決算概要

執行役員 財務経理本部長
森上 倫輔

2. 今期の活動方針について ～新中期経営計画初年度にあたり～

代表取締役社長
横田 和彦

3. 質疑応答

1. 2023年3月期決算概要

2023年3月期 実績

売上高・各段階 利益過去最高更新

売上高	4,251億円	(前年同期比+11.5%)
営業利益	81億円	(前年同期比+18.2%)
経常利益	102億円	(前年同期比+12.2%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	74億円	(前年同期比+25.1%)

売上面

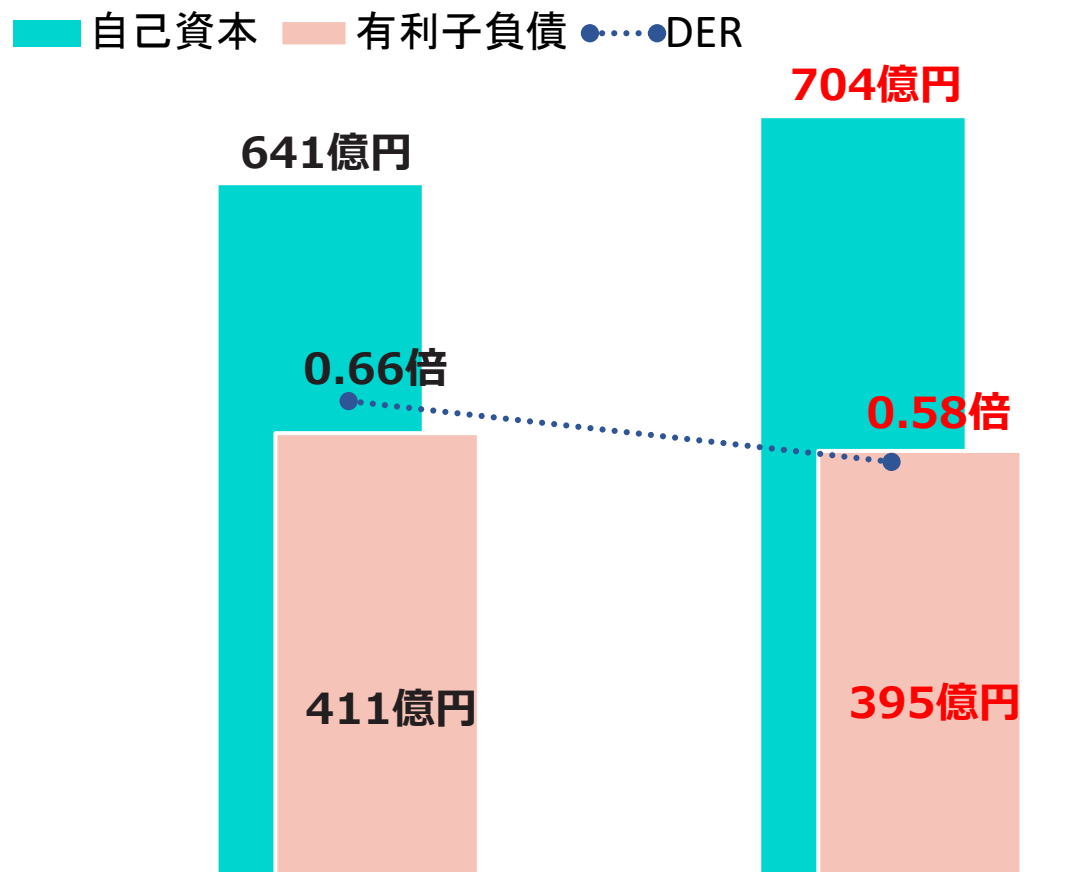
国産食肉：販売堅調、取扱重量増加し増収。
輸入食肉：国内相場が前年を大きく上回り増収。
加工食品：原材料高騰を踏まえ価格改定を実施し増収。

利益面

国産牛肉の販売が堅調に推移し、売上総利益は大きく増加。販管費の増加、金利負担や関連農場の業績悪化に伴う引当金計上も、各段階利益は過去最高を更新。

2023年3月期 財政状況

財政状態・FCF改善



財政状況

自己資本比率	48.1%	(前年 45.1%)
--------	-------	------------

連結キャッシュ・フロー

営業キャッシュフロー	+72億円	(前年 +14億円)
------------	-------	------------

投資キャッシュフロー	▲41億円	(前年 ▲34億円)
------------	-------	------------

フリーキャッシュフロー	+30億円	(前年 ▲20億円)
-------------	-------	------------

財務キャッシュフロー	▲31億円	(前年 ▲15億円)
------------	-------	------------

業績サマリー(前期比較PL)

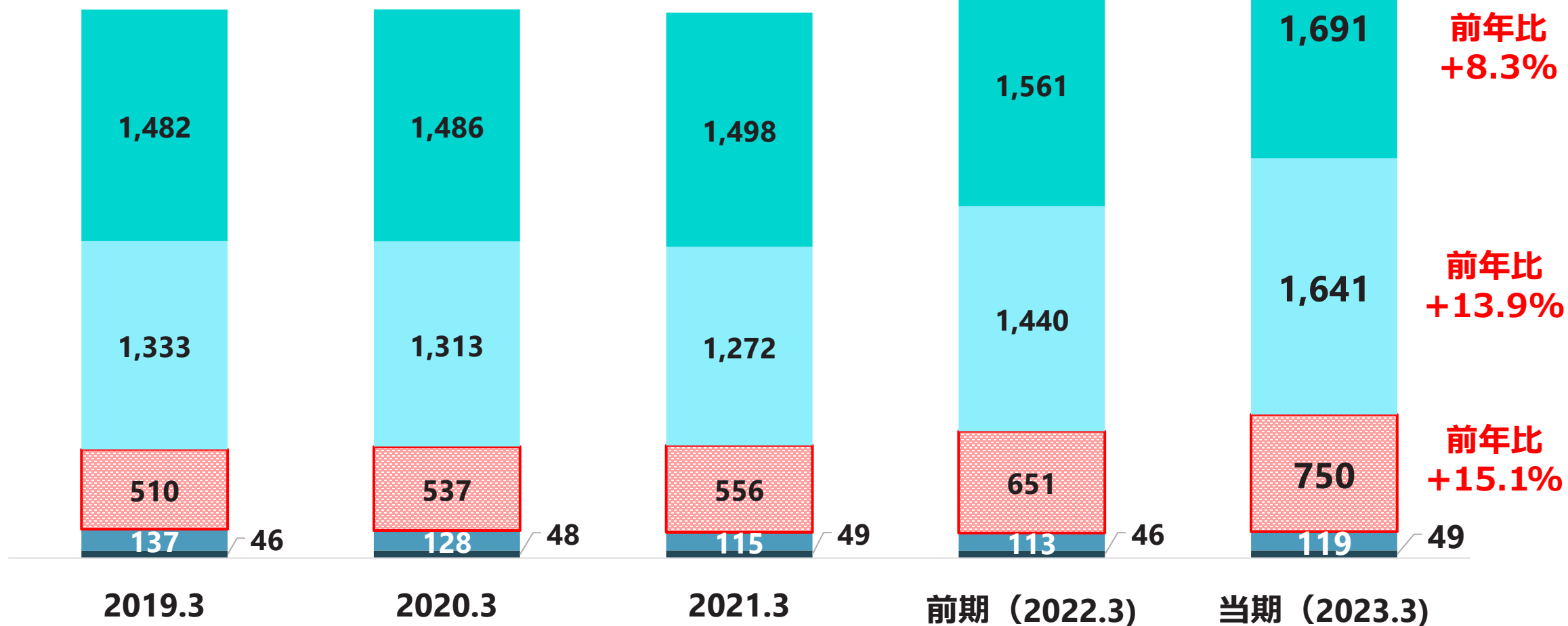
(単位：億円)

	前期 (2022.3)	対売上高 利益率 (2022.3)	当期 (2023.3)	対売上高 利益率 (2023.3)	増減額
売上高	3,814		4,251		+437
売上総利益	354	9.3%	385	9.1%	+31
営業利益	69	1.8%	81	1.9%	+12
経常利益	91	2.4%	102	2.4%	+11
税前利益	84	2.2%	102	2.4%	+17
親会社株主に帰属 する当期純利益	59	1.6%	74	1.8%	+14

売上高(品目別)

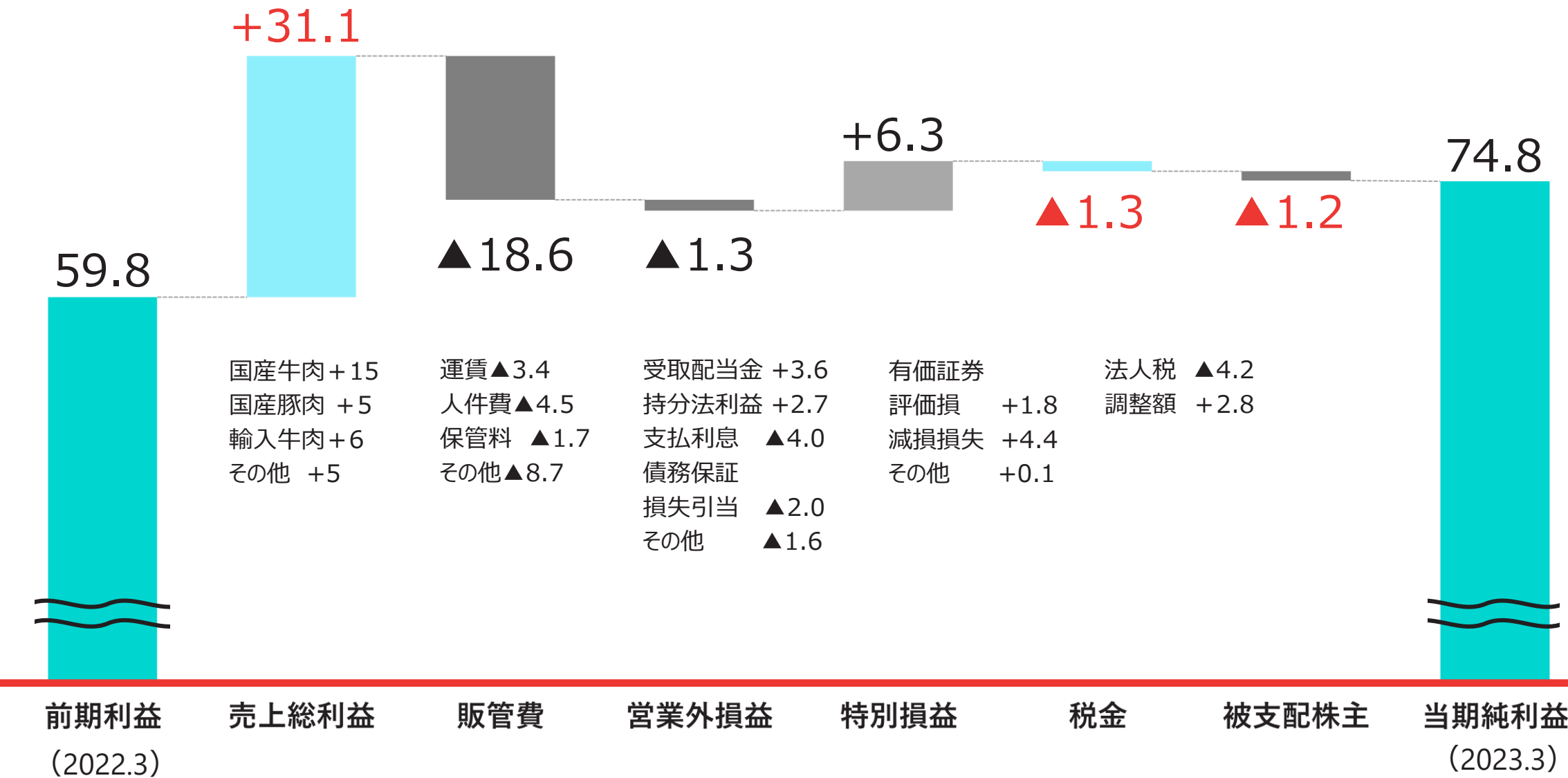
(単位：億円)

- 国産食肉
- 輸入肉
- 加工食品
- ハム・ソーセージ
- その他



損益増減概要

(単位：億円)



貸借対照表

貸借対照表

	2022.3	2023.3	増減
流動資産	935	954	+19
固定資産	488	510	+21
繰延資産	0	0	▲0
資産合計	1,424	1,465	+40

(単位：億円)

	2022.3	2023.3	増減
流動負債	551	494	▲56
固定負債	233	268	+35
負債合計	784	763	▲20
純資産合計	640	701	+61
負債・純資産合計	1,424	1,465	+40

財務指標等

	2022.3	2023.3	増減
運転資金	616	640	+24
有利子負債	411	395	▲16
ネット有利子負債	300	284	▲15
DER	0.66倍	0.58倍	▲0.08倍
自己資本比率	45.1%	48.1%	+3.0%

	2022.3	2023.3	増減
ROA	6.7%	7.1%	+0.4%
ROE	9.7%	11.1%	+1.4%
EBITDA	98	110	+12
減価償却費	29	29	▲0
ROIC	5.7%	6.5%	+0.8%

2. 今期の活動方針について ～新中期経営計画初年度にあたり～

テーマ 「収益構造の再構築とサステナブルな事業運営」

3つの方針

① 新規事業への挑戦

② 国内事業改革

③ サステナビリティ経営と経営基盤強化

2026年3月期目標

EBITDA

120億円

ROE

8%以上

ROIC

5.5%以上

自己資本比率

40%以上

① 新規事業への挑戦

海外事業の積極展開

今後

国内ノウハウを
更に展開

以前

現在

海外拠点 = 調達拠点⇒販売もできる拠点

輸出認定
工場の拡充

輸出認定 7工場
25の国と地域に輸出

輸出仕向け和牛
の増頭

海外顧客を日本へ招聘
農家・工場を視察



豪州Wagyuの
肥育事業開始

国内得意先の
海外進出支援

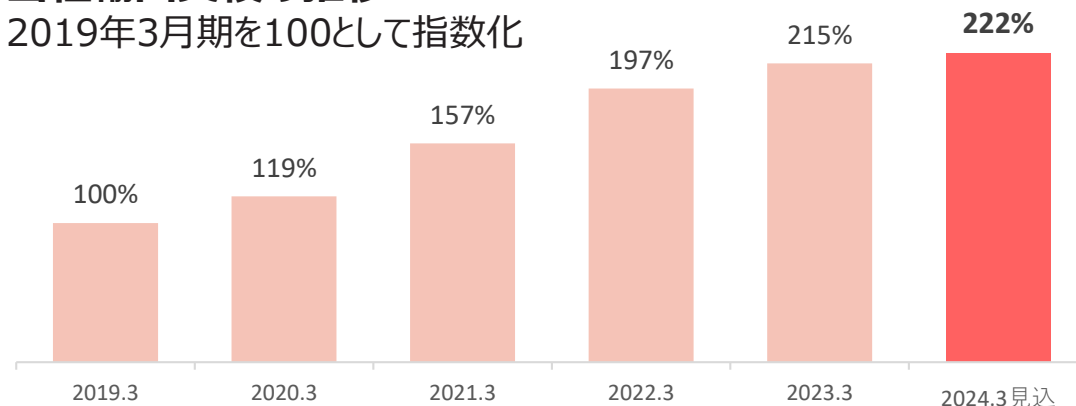
販売強化に向けた
加工・物流の整備

海外向けブランド
の確立

海外食肉パッカーへ
の投資

当社輸出実績の推移

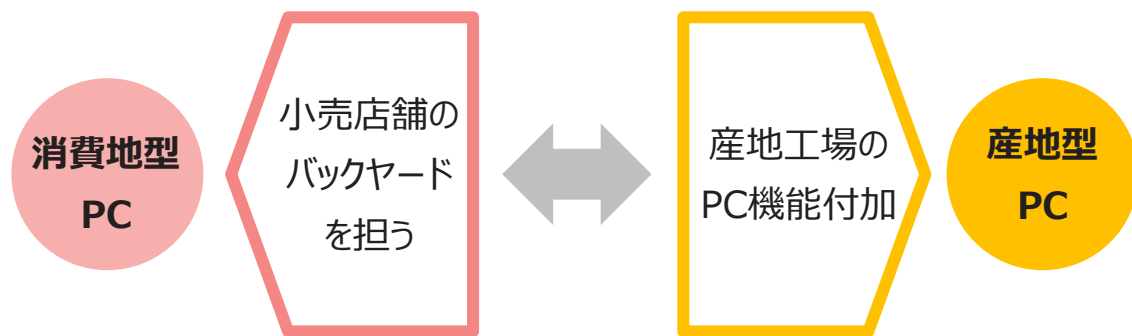
2019年3月期を100として指数化



② 国内事業改革 高付加価値商品の取り組み

マーケット特性に対応したプロセスセンターの展開

- ・小売店舗のバックヤードを担うPCのエリア拡大
- ・DtoC販売比率の向上 = 産地工場のPC機能拡大



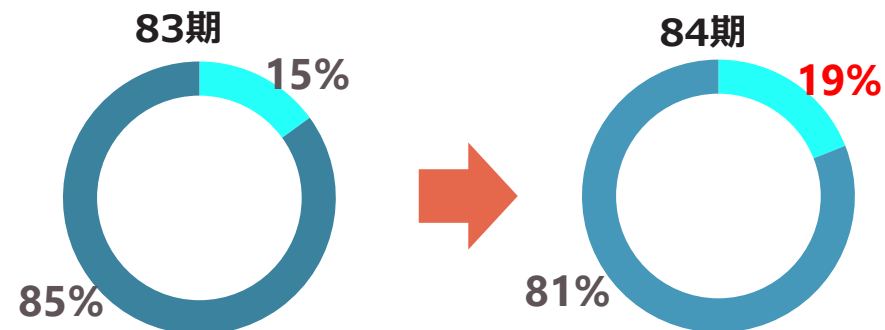
加工食品群におけるNB構成率の拡大

- ・商品アイテムの見直し/統廃合
- ・生産の効率化や販売数量の拡大

収益の
安定化

例:ハンバーグ NB/PB構成比

NB商品 PB商品



組織体制の構築

- ・マーケティング
- ・商品開発
- ・ブランディング

ブランド戦略

自社ブランドの再構築

- ・環境市場の分析
- ・独自性の見直し
- ・社員の一体感醸成

営業戦略の具体化

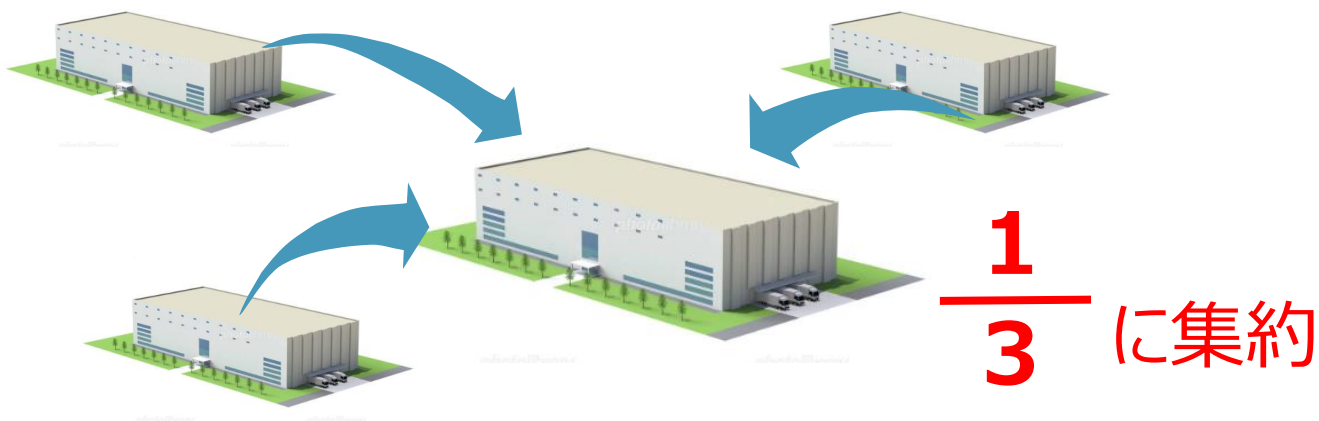
- ・製品/ライン戦略
- ・流通政策
- ・プロモーション戦略

② 国内事業改革 物流の効率化

物流の2024年問題への対応

外部委託先冷蔵庫の集約と受発注業務見直し

首都圏60カ所以上の外部委託先冷蔵庫を1/3に集約

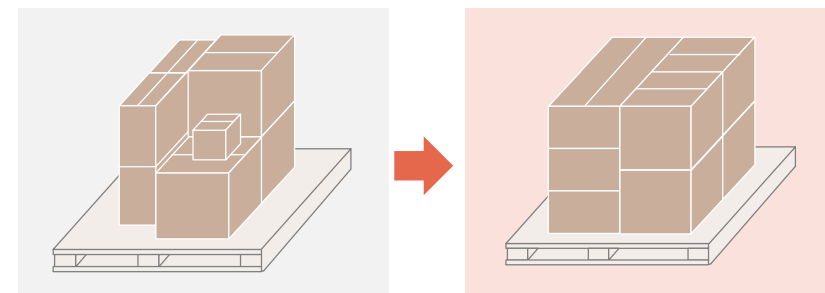


資材の規格統一

ダンボールや資材の規格統一

パレット輸送、モーダルシフトなどを順次実行

ダンボール統一化による積載率向上



今後

- ・大都市の拠点から整備
- ・営業拠点の移設 物流施設の再検討

③サステナビリティ経営と経営基盤強化

サステナビリティ経営の実践

人材の確保、育成に向けた取り組みが重要

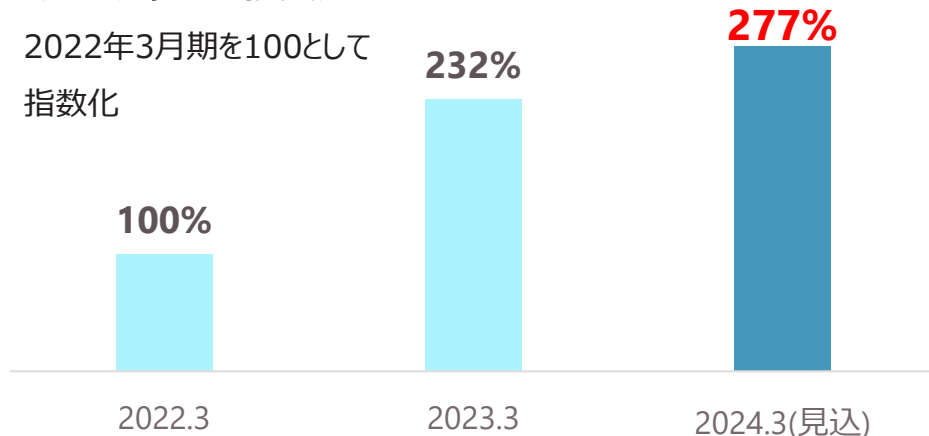
従業員が生き生きと活躍し、チャレンジできる風土、組織等、成長できる仕組みづくりを継続

人的資本への投資

- ・専門委員会の立ち上げ（人事委員会）
人材ポートフォリオの再構築
- ・「成長する場」の拡充（研修の充実）

一人当たりの研修費用

2022年3月期を100として
指数化



従業員エンゲージメント向上

- ・社内公募制度開始（人材の流動化推進）
- ・職場環境の整備（フリーアドレスの促進）
- ・タウンホールミーティングの実施
- ・健康管理の強化



フリーアドレスオフィス（品川本社）

2024年3月期 通期業績予想

(単位：億円)

	2023年 3月期実績	2024年 3月期予想	通期対比
売上高	4,251	4,300	+1.1%
営業利益	81	75	▲8.1%
経常利益	102	88	▲14.4%
税後利益	74	61	▲18.5%

2024年3月期通期業績予想 総括

- ・世界的な食肉需要の高まりによる仕入価格の上昇、飼料価格の高騰
- ・エネルギーコストの上昇による工場と物流網のコストUP

2024年3月期 配当予想

直近5カ年推移

	2020年 3月期実績	2021年 3月期実績	2022年 3月期実績	2023年 3月期予定	2024年 3月期予想	増減
一株当たり配当金 (円)	55 (110)	65 (130)	65	75	75	0
配当金総額（百万円）	1,073	1,267	1,265	1,462	-	-
配当性向	61.5%	18.3%	21.1%	19.5%	24.0%	+4.5%

※当社は2021年4月1日を効力発生日として1株につき2株の割合で株式分割を行っております。

2019年3月期期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり配当金を記載しております。

尚、括弧書きは株式分割前の1株当たり配当金を記載しております。

当資料は投資家の参考に資するため、スターゼン株式会社（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。記載内容は、2023年5月29日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。本発表にて提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みますが、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。